

<全体分析>

試験時間 2科目 120分

解答形式

記述式, 論述式, 選択式, 描図

分量・難易(前年比較)

分量(減少・**やや減少**・変化なし・やや増加・増加)難易(易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

非典型的な問題が出題され, 試験場での題意の理解力と思考力が試される。

数値計算が多い。原子分野が出題される。

例年, 人名・用語や, 物理量の数値など, 知識を問う問題が出題されるが, 今年は出題されなかった。

また, 論述問題が増えた。

その他ピックス

なし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	問形式	小問集合 (自由落下した水の温度 上昇, 半減期, 地上に存在 する空気の分子数)	物理基礎 物理	物理の基本原理・法則に基づき, 考えさせる小問集合。単に公式に当てはめるだけではない, 基礎の理解の深さを問うものになっている。	やや易
II	問形式 空所補充	波動 (光の屈折, レンズと鏡 による像の考察)	物理	問1は, フェルマーの原理に関する考察。問2は, 眼球を球体に見立てて, 光の屈折を考察させる問題。角膜部分が盛り上がっている理由を論述させる設問があった。問3は, レンズと鏡による像の問題。問4は, これまでの設問を踏まえ, 直接視と鏡像視の比較を論述させる問題。各設問は難しくないが, 論述が問1, 2, 4と3問あるので, 時間配分に注意したい。	やや易
III	問形式	電磁気, 原子 (地球の電気容量と絶縁 破壊, 電子の加速と金属 への衝突)	物理	問1は, 地球を導体球と仮定し, 電気容量や絶縁破壊が起こる電気量を求める問題。問2は, 加速電子を金属の微小領域に当て, 加熱する問題。最後にまた論述問題がある。いずれも題意を正確に把握すれば難しくはない。	やや易

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

基本・典型問題と, 複合的な問題, 見慣れない非典型問題を出題する。また, 数値計算が多い。見慣れない問題では, 題意の把握に時間を要するため, 時間的な余裕はない。題意を正確に把握する力, 迅速な計算能力が必要であるから, 過去問や程度の高い問題集などで, よく訓練しておきたい。また教科書に載っている細かい知識や, 原子分野からの出題が見られるので, 教科書にも目を通し, 知識や理解を深めておくようにしよう。